

銀行名	山梨中央銀行
タイトル	投資事業有限責任組合を活用した創業支援・成長支援
取組み内容	<p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成16年、当行と山梨県が主体となり「やまなしベンチャー育成投資事業有限責任組合」を設立。同組合が組成したベンチャーファンドを活用してベンチャー企業の育成支援に取り組んできた。 ・ 平成25年末の同ファンドの終了に伴い、当行と山梨県にて今後の新事業への育成支援策を協議する中、同ファンドの後継として起業・創業段階にある事業者への投資を行う「やまなし新事業応援投資事業有限責任組合」の設立を山梨県にて決定した。 ・ 新組合の無限責任組合員には、当行グループ会社の山梨中銀経営コンサルティング株式会社が指名を受け、平成26年8月に組合を設立し、ファンドを組成した。 ・ 当行としては、新ファンドに1億5千万円の出資協力を行った。 <p>【ファンド組成の趣旨・見込まれる効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新ファンドは、一般的なベンチャーファンドのようにキャピタルゲインを主目的とするものではなく、事業者の育成・支援を通じ、山梨県の次世代を担う企業の支援体制の強化を目的とする。 ・ 投資対象は、山梨県が策定した「山梨県産業振興ビジョン」に基づき、医療・環境・ものづくり・農業・観光など、今後の成長が期待できる分野を中心に投資を行う。 ・ 新ファンドは、投資後も当行や各種支援機関で構成する支援チームと連携し、技術指導や販路開拓支援などを併せて行い、継続的に企業の成長を支援することで新産業や雇用の創出につなげていく。 ・ 当行としても、成長分野における起業家や創業段階にある企業の育成支援を図ることで、当行の次世代の優良取引先発掘につなげ、企業の成長に伴う資金需要を生み出すことで、今後の経営基盤の強化につなげていく。 <p style="text-align: right;">以 上</p>

銀行名	山梨中央銀行
タイトル	外国金融機関に派遣している当行行員と連携した当行取引先への海外販路開拓支援
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当行A支店の取引先B社（ペット用品販売業者）が、日本で開催されたペット関連の展示会に出展した際、タイのペット用品のバイヤーであるC社から引き合いを受けた。 ・ B社は海外への輸出実績はあったが、タイへの販路はなかったことから新規販路開拓のため、C社の情報収集の相談をA支店に行った。A支店からの報告を受けた営業統括部国際業務室ではタイの金融機関に派遣している当行行員Dに連絡し、C社および現地バイヤーの情報収集を開始した。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 派遣している行員Dは現地バイヤーの情報収集を行い、派遣先の金融機関から公開可能情報として提供を受けたC社を含めた現地バイヤーの会社概要を国際業務室経由でB社に提供した。 <p>【取組みの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当行から提供した情報を元に、B社ではC社と条件交渉を行い、取引成約となった。（B社ではC社以外の現地バイヤーとの交渉も順次行っていく予定。） ・ 輸出代金については当行口座にて受領しており、当行の外為収益増加につながった。 <p style="text-align: right;">以 上</p>

銀行名	山梨中央銀行
タイトル	エコノミクス甲子園山梨大会の開催
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定非営利活動法人金融知力普及協会が平成 19 年から開催している全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」の趣旨に賛同し、地方大会（山梨大会）を平成 23 年から主催している。 <p>高校生に、世の中がどのような金融経済の仕組みで動いているのかを理解してもらおうとともに、「自分のライフデザイン」や「自分とお金の関わり方」について、クイズを通して考えるきっかけとしてもらうことを目指している。</p> <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容 <ul style="list-style-type: none"> 筆記クイズ（4 択 50 問のマークシート形式で出題） 早押しクイズ 決勝戦「賞金山分けクイズ」 ・ 平成 25 年度実績 <ul style="list-style-type: none"> 参加校数 9 校 参加人数 52 名(26 チーム) <p>【取組みの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生に楽しみながら金融・経済を学べる機会を提供できた。また、大会参加をきっかけとして金融・経済に対する興味を喚起できた。 ・ 開催した 3 回とも参加者は 50 名を超えており、金融経済教育の普及が進んでいる。 <p style="text-align: right;">以 上</p>

銀行名	山梨中央銀行
タイトル	小学校低学年（1～2年生）対象の金銭教育授業の実施
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会づくりのために、金銭教育を通じて、「将来を担う子どもたちのお金や物を大切にする心の育成」、「お金や労働の価値を学ぶことによる感謝や自立の心の育成」などを目指している。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 小学校低学年向けテキスト「おかねのたび」による金銭教育 紙芝居「おかねのたび」の読み聞かせ 黒板に登場人物のパネルを掲出して、お金の流れの説明 まとめ A．お金の役割、B．お金やものの大切さ、C．保護者への感謝について 授業終了後、児童にテキスト「おかねのたび」を各1冊贈呈。 ・平成25年度実績 実施回数 7回 参加人数 138名 <p>【取組みの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年の取組開始以来、学校側の理解のもと道徳などの授業の一環として毎年6～7回実施している。また、平成25年度は、初めて図書館での授業も実施、児童だけでなく保護者も参加していただける授業を行った。 受講された児童・保護者から、「とても楽しくお金の勉強ができた」、「お金や物を大切に使います」などの好意的な感想が寄せられており、金銭教育の一助となっている。 <p style="text-align: right;">以 上</p>

銀行名	山梨中央銀行
タイトル	職場体験学習の受入れ
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校が「道徳」や「総合学習」などの授業の一環として実施している職場体験学習に協力している。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 <ul style="list-style-type: none"> 銀行業務の説明、当行の概況 支店（営業室など）見学 応対・電話マナー、札勘・加算機体験 ロビーでのお客様対応（あいさつ、送迎など） 質疑応答など ・平成 25 年度実績 <ul style="list-style-type: none"> 実施回数 21 回 参加人数 197 名 <p>【取組みの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年多くの学校からの要請により、小学校低学年の職場見学から大学生への講義まで、幅広く受け入れている。「銀行の仕事を知ることができた」「自分の生き方や将来の進路を考える機会になった」などの好意的な感想をいただいております、有意義なキャリア教育の機会として、各学校からの要請も年々増加しています。 <p style="text-align: right;">以 上</p>

銀行名	山梨中央銀行
タイトル	森林整備事業（里地里山保全事業）の実施
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 22 年 9 月に、環境保全活動に対する基本的な考え方を明確化するとともに、役職員一人ひとりが自らの役割を自覚するため「環境方針」を制定した。その環境方針のもと、平成 23 年 8 月から持続可能な社会の形成に向けた環境保全活動として実施している。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容 <ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地での野菜栽培等 耕作放棄地（653 m²）において、スイートコーンやジャガイモ等の栽培。 森林の整備 荒廃した森林（4,759 m²）の間伐、山桜等 600 本の植樹、下草刈り。 平成 25 年度実績 <ul style="list-style-type: none"> 実施回数 5 回 参加人数 416 名（平成 23 年 8 月以降延べ 1,109 名） <p>【取組みの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎回約 100 名が参加しており、役職員の環境問題への意識を高めるきっかけとなっている。また、本事業は地元の農業関係者の協力のもと実施しており、地域の皆さまとの親交も図られている。 <p style="text-align: right;">以 上</p>